



展示を見る参加者



会場の様子

## 3年ぶりの開催 パワフルアグリフェア



**7**月16日、17日の2日間、宇都宮市西刑部町のみずほの自然の森公園でJAグループ栃木主催の農機具統一展示会「パワフルアグリフェア」が3年ぶりに開催されました。JAうつのみや管内からは約900人が来場しました。

今回はマスクの着用や通路の幅を広く取るなど新型コロナウイルス感染症対策を行った上で開催。「生産振興とJAグループへの結集を図り、「持続可能な農業」を実現する」をテーマに、生産資材コスト低減や省力化、生産振興に関する提案・紹介を行い、生産者の所得増大と農業生産の拡大を図りました。

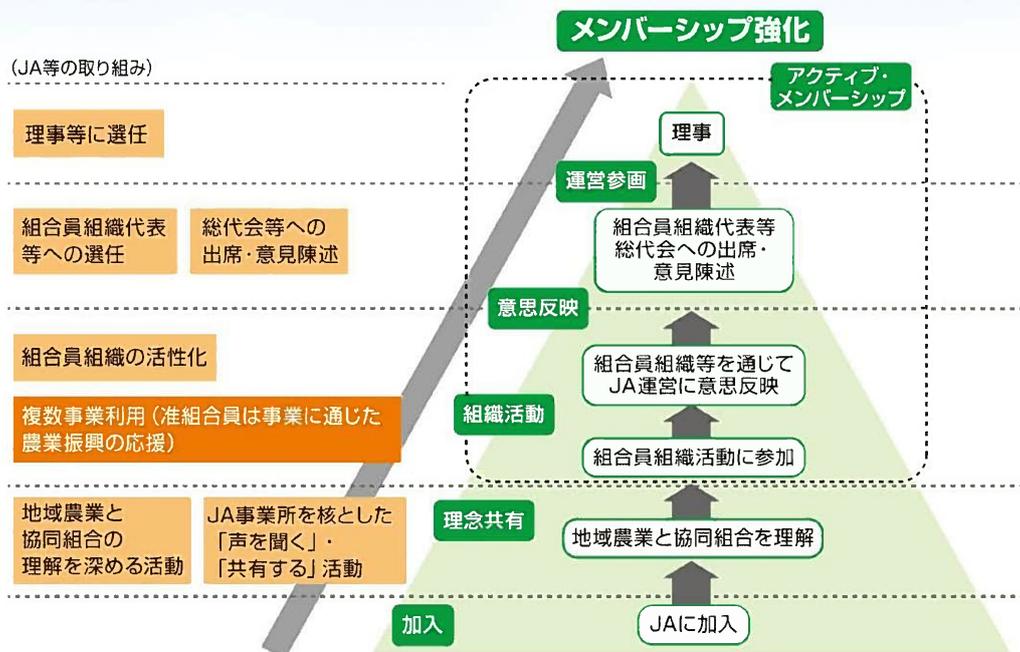
当日はメーカー各社が新型農業機械の展示・実演を実施。またロボットトラクターやドローンといったICT農機などの出展も行われました。

参加したJAうつのみや管内の生産者は「これまで毎年訪れていたのですが、今回は待望の開催。田植え機を中心に見て回りたいと思っている」と話しました。



# の確立に取り組んでいます

意識を持ち、積極的にJA事業や活動に参加することです。



## 佐藤俊伸専務が栃木放送「今朝も元気でいってらっしゃい」でアクティブ・メンバーシップについて紹介

JAの佐藤俊伸専務が栃木放送「今朝も元気でいってらっしゃい」に出演し、JAのアクティブ・メンバーシップの拡大に向けた取り組みについて紹介しました。

### 【佐藤専務のコメント】

アクティブ・メンバーシップとは、組合員が積極的にJAの事業や活動に参加すること、つまり「我がJA」という意識を持ってもらうことです。JAは元来、組合員が出資し、組合員が運営し、組合員が利用する組織です。アクティブ・メンバーシップはその原点に立ち返る活動となります。

そのためにJAでは、従来からの組合員総集会、事業運営委員意見交換会、地域農業振興検討会などに加え、さまざまな機会を設けています。1つ目は担い手訪問。常勤役員が中心となり、部会の代表者などを訪問しています。2つ目は組合員訪問。月1回全職員が分担して担当する地区を訪問し、組合員の意見を伺っています。3つ目は意見箱の設置。あらゆる立場の方から意見・要望を集めるため、各事業所に意見箱を設置しています。4つ目は准組合員モニター制度の設置。「農家の応援団」である准組合員の意見を伺う場を設けています。このような活動に取り組み、さまざまな意見を伺うことでJAの事業運営に生かしています。

我々は今後も組合員の声を直接聞くことを大切にしていきたいと思っています。JAでは農業・暮らし・地域を結びつけることにより、希望の持てる農業と地域の皆さまの快適な暮らし作りに貢献してまいります。引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。



ラジオ収録を行う佐藤専務(左)

# JAでは「アクティブ・メンバーシップ」

「アクティブ・メンバーシップ」とは 組合員が「私たちのJA」

## 2021年度JAの取り組み

### 組合員との対話運動 役員による担い手訪問

JA常勤役員が生産者107軒を訪問。農業経営や地域農業に対する課題・要望などを把握し、事業対応強化および事業計画策定に反映しました。



役員による担い手訪問

### 地域農業振興検討会

JAの支所、営農経済センター8会場で地域農業振興検討会を実施し、生産者ら271人が出席。地域農業の課題や対策・農業振興について意見交換し、地域ごとに「地域農業革新戦略」を作成、事業計画に反映しました。



あいさつする横松組合長

### 事業運営委員意見交換会

JAの支所、営農経済センター8会場で事業運営委員意見交換会を開き、事業運営委員113人が出席。各地区の農業振興・地域活性化を図るため、組合員の地域独自の意見・要望を話し合いました。



事業運営委員意見交換会

## 2022年度から始まったJAの新たな取り組み

### 准組合員の意見を取り入れる・准組合員モニター

JAは7月14日、宇都宮市戸祭元町のJA本所で、第1回准組合員モニターオリエンテーションを開催。モニターに応募した准組合員12人が参加しました。

准組合員モニター制度は、アクティブ・メンバーシップの確立の一環として今年度初めて設置。継続的な意見交換を通し、JAや農業への理解を深めてもらい、事業運営、商品・サービスの提供に生かすことが目的です。

JAの佐藤俊伸専務は「JAは農業・地域・暮らしに貢献することを理念としている。地域の活性化に向けて、意見を聞いていくことが非常に重要」とあいさつし、期待を込めました。オリエンテーションでは担当者が准組合員モニターの役割やJAの概要を説明。参加者はJAのイメージや改善してほしいことなどを話し合い、購買店舗のPRやJAが行っている事業の周知などの意見が上がりました。

第2回はJA管内の直売所体験会を行う予定です。



JAの課題について話し合う参加者

## 出荷に備えて グリーンアスパラガス専門部が目ぞろえ会・中間検討会

2 出荷も  
ゼロに12 つくる責任  
つなぐ責任

目ぞろえを行う部員ら



JA グリーンアスパラガス専門部は7月1日、宇都宮市砂田町の南部営農経済センターで出荷目ぞろえ会・中間検討会を開催。部員や関係機関の担当者ら42人が参加しました。

佐藤要専門部長は「観測史上一番早い梅雨明けとなり、皆さん暑い中の作業で大変な苦勞をされているかと思ひます。体調管理に留意しながら出荷作業を行ってください」とあいさつしました。

今回は2022年産アスパラガスの中間販売経過やそれを受けた今後の対策などを協議しました。本年度は

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により厳しい販売状況が続くものの、回復の兆しがあることを説明。引き続き品質維持や販売強化など、対策を行っていくことを確認しました。目ぞろえ会では現物を使って出荷規格を確認し、出荷に備えました。

## 西部選果場で繭を出荷 宇都宮市内唯一の養蚕農家安納さん

12 つくる責任  
つなぐ責任

7月4日、宇都宮市田野町の西部選果場で、同市飯田町で養蚕農家を営む安納光作さんが約100キロの繭を群馬県の碓氷製糸株式会社に出荷しました。安納さんは宇都宮市内で唯一の養蚕農家で、養蚕を約40年間続けています。

安納さんは約6万匹の蚕を飼育しており、5月25日に群馬県内の業者から配蚕を受け、約1ヘクタールの桑畑から桑の葉を与えてきました。養蚕は温度・湿度管理が重要なため、蚕を病気にさせないように特に気を使って管理を行ったそうです。秋にも繭作りが行われます。

安納さんは「養蚕農家は以前と比べずいぶん減ってしまった。体に気を付けてできる間は続けていきたい」と話しました。



西部選果場で行われた繭の出荷

## 収穫に向けて各地のほ場で現地検討会 水稻現地検討会

2 出荷も  
ゼロに

ほ場で行われた現地検討会



JA は7月12日、13日の2日間、各営農経済センター管内のほ場で水稻現地検討会を開催しました。13日に宇都宮市上桑島町の鱒淵憲さんのほ場で行われた現地検討会には、水稻生産者や関係機関の担当者ら約30人が参加。肥培管理や適期刈り取り、防除、リモートセンシングなどについて確認しました。

県河内農業振興事務所経営普及部農畜産課の担当者が気象概況、追肥、病害虫防除について今後の注意点を説明。水管理については間断かん水を基本とし、高温が続く場合は夜間かん水などにより地温を下げることを呼び掛けました。また、斑点米カメムシ類の発生について、水田内・畦畔の除草、薬剤防除を組み合わせるを行い、対策を徹底するよう注意を促しました。

## 発芽率向上を図る 加工用ニンジン播種実演会

2

2 栽培  
のDL加工用  
ニンジン  
のは種

JA は7月22日、宇都宮市芦沼町の黒崎浩史さんのほ場で加工用ニンジン播種実演会を初めて開催し、生産者や関係機関の担当者ら約30人が参加しました。

同実演会は地域全体の収量向上を目指し、加工用ニンジンの栽培で最も重要なポイントである発芽率の向上を図るため、多収栽培を実践している生産者のは種方法の周知を目的に開催しました。

黒崎さんは麦の裏作として加工用ニンジンで2畝栽培しています。当日は黒崎さんがは種作業を実演。実演後黒崎さんはは種時の覆土について「深くしすぎると水分があっても

光が当たらないため発芽しない。浅すぎると水分が足りずに発芽しない。土壌に合わせた深さの調節が重要」と話しました。

JAでは県と連携して水田を活用した高収益作物の露地野菜の生産に取り組んでおり、河内地区での加工用ニンジンの作付け拡大が期待されます。

## スマート農業拡大に向けて Z-GIS・ザルビオの使用方法に関する講習会

2

2 栽培  
のDL

JA は7月22日、宇都宮市平出工業団地の栃木県JAビルで、スマート農業の取り組み拡大を目的として生産者を対象に「Z-GIS・ザルビオの使用方法に関する講習会」を開催しました。

「Z-GIS」は実施作業などを電子地図上に「見える化」する営農管理システム。「ザルビオ・フィールドマネージャー」は衛星データとAI（人工知能）を活用し、生育・病害予測を行う栽培管理支援システムです。両システムは比較的lowコストのため導入しやすく、組み合わせることで効率化や品質向上が期待できます。

講習会では、JA全農とちぎ営農販売企画部担い手支援課の担当者が講師を務め、Z-GIS、ザルビオそれぞれの機能や活用事例を紹介しました。講習会後には参加者が実際にシステムを操作し、使用方法を体験しました。

JAでは全農とちぎと連携して普及に取り組み、生産者への支援を強化していきます。

説明を  
聞く参加者

## 最後まで厳選出荷を 梨専門部が出荷目ぞろえ会

2

2 栽培  
のDL

12

つくる責任  
つかう責任目ぞろえ  
を行う部員ら

JA 梨専門部は7月27日、29日の2日間、「令和4年産梨（幸水）出荷目ぞろえ会」を雀宮、清原、河内、城山の支部ごとに宇都宮市内の各支部会場で開催。約130人が参加し、出荷規格や品質向上対策などを確認しました。清原支部は27日、宇都宮市上籠谷町の東部選果場で目ぞろえ会を行い、部員や関係機関の担当者ら40人が参加しました。

大橋基宏専門部長は「今年は3年ぶりに平年並みの着果数となり、市場関係者なども産地に期待を寄せている。最後まで規格を厳守して、出荷をお願いしたい」と

話しました。全農とちぎの担当者が販売情勢を報告し、盆中の8月15日ごろから出荷のピークになるとの見通しを示しました。同JAの担当者が8月のナシの管理ポイントとして、果実肥大状況や収穫出荷調整、病虫害防除について説明しました。幸水は9月上旬まで、京浜地区を中心に県内などに出荷されます。

28日に行われた収録



### 栃木放送「今朝も元気でいってらっしゃい」収録実施(7月11日、28日)

7月11日に宇都宮市戸祭元町のJA本所で栃木放送「今朝も元気でいってらっしゃい」の収録が行われ、JAの佐藤俊伸専務、女性会の所洋子会長、青壮年部の吉田昌史部長が出演しました。28日には宇都宮市下小倉町の上河内宮農経済センターで収録が行われ、「産地だより」のコーナーでは直売所運営委員会会長の塩原克彦さん、生産者の恩田弘子さん、JAグリーンかみかわち店長の平石智子さん、「アグリトーク」では「工房すず」代表の鈴木恵美子さんが出演しました。



カクイチの担当者から説明を受ける参加者



フォークリフトに試乗する参加者



### 体験できるカクイチ 視察研修会(7月15日)

JAは宇都宮市鶴田町のカクイチA-SITEで視察研修会を行い、JAの融資担当者ら9人が参加しました。同研修会は、農業用倉庫など取扱業者を訪問することで農業関連資金のニーズを理解し、農業者の立場でよりよい資金コーディネートを学ぶことを目的としています。



調理する篠崎支部長(左)と会員



机に並ぶ 今回のメニュー4品

### 栃木県の特産品「かんぴょう」を使った料理を子どもたちに(7月25日)

みどり会雀宮支部は、宇都宮市戸祭4丁目の昭和こども食堂で調理ボランティアを行いました。篠崎純子支部長は「かんぴょうを使ったミネストローネが気に入っています。子どもたちにも喜んでもらえたらうれしいです」と話しました。

物資を提供した青壮年部の吉田部長(左)



### JA青壮年部が子ども食堂に物資提供(7月26日)

JA青壮年部は、宇都宮市戸祭4丁目の昭和こども食堂にスイカ5玉とウエットティッシュ50個を提供しました。青壮年部の吉田昌史部長は「子どもたちにおいしくスイカを食べてもらえると、提供した盟友も喜ぶと思う」と話しました。

組合員の皆さまからの地域の話や活動報告をお待ちしております。写真を添えてお送りください。 ※紙面の都合上、掲載されない場合もありますのでご了承願います。詳しくは総務課組合員広報係まで。

## 令和3年度認定就農研修制度 IN 先進農家研修生が修了 宇都宮市農業公社



令和3年度の修了生ら



**公** 益財団法人宇都宮市農業公社は6月23日、宇都宮市元今泉7丁目の同公社で令和3年度認定就農研修制度IN先進農家研修生の修了式を開催。修了生や関係者16人が参加しました。

同研修制度は、宇都宮市農業公社が新規就農希望者を対象にJA専門部の推薦する先進農家の下で実地研修を行うもので、令和3年度は4人が研修を修了しました。

令和3年度は増淵和枝さん(42)、鈴木陽夏美さん(22)、中村匡江さん(43)の3名がアスパラガス、齋藤康人さん(25)がイチゴの先進生産者の下で約1年間研修し、修了しました。修了生の増淵さんは「今後は研修で学んだ栽培技術・経営の基礎と、多くの皆さまに支えられて農業に従事できていることへの感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきたい」と意気込みを語りました。

## 稲四石めざして現地検討会 宇都宮市城山水稲四石会



**宇** 都宮市城山水稲四石会は7月8日、現地検討会を宇都宮市幕田町の荒川真利さんのほ場など13カ所で開催。同会員や関係機関の担当者など16人が参加しました。

参加者はほ場で生育状況などを確認。県河内農業振興事務所の担当者が今後の気象予報や管理の注意点を説明し、生育状況に応じたかん水や追肥を呼び掛けました。

同会はJAうつのみや西部営農経済センター管内の稲作農家を主として構成され、四石(米俵10俵分)以上の多収穫を目指して1967年に設立した組織です。現在、会員は20人。栽培技術研究などの活動に精力的に取り組み、設立当時から続く共進会を通して、会員同士で技術を高め合っています。

小平裕一会長は「先人たちの知恵や技術を脈々と受け継いできた。これからも会で残していきたい」と話しました。今後、同会は地区の垣根を超えて会を周知し、活動の範囲を拡大していく予定です。



現地検討会を行う会員ら

## 令和4年度栃木県家の光大会開催 JA栃木中央会・JA栃木女性会



宇都宮市平出工業団地の栃木県JAビルで開催された栃木県家の光大会



**JA** 栃木中央会・JA栃木女性会は7月25日、宇都宮市平出工業団地の栃木県JAビルで「令和4年度栃木県家の光大会」を開催しました。県内各JAの女性会会員、JAグループの役職員が参加し、JAうつのみやからは5人が参加しました。同大会は「家の光」の普及に貢献したJA、女性会を表彰し、記事活用の体験発表を行うもので、新型コロナウイルス感染対策を講じながら開催しました。

JAうつのみやは普及優績組合「家の光」部に選ばれ、横村久夫組合長が表彰を受けました。また体験発表ではJAうつのみやみどり会平石支部の釜井ひとみさんが「『夢』『ゆとり』ある農業経営をめざして・健康で明るい家庭と女性の仲間」を題に体験をつづり、優秀賞を受賞しました。記念講演では料理研究家のしらいのりこさんが講師を務め、「おいしいごはん食で健康食生活」を題に講演しました。

# 水稲



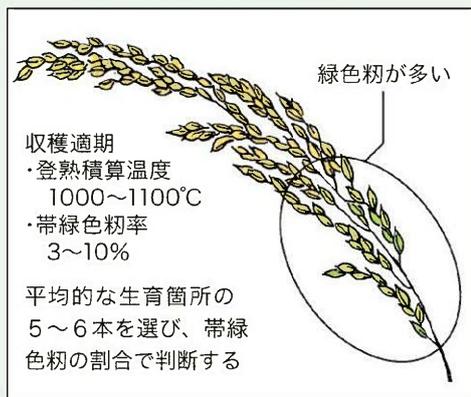
収穫の秋を迎えました。品質や食味を落さないことを重点に作業を行いましょう。

## 適期刈り取りの励行

刈り遅れは品質低下を招きます。収穫時期が近づいたら、登熟積算温度および帯緑色粉率(籾の色)で収穫時期を判断し、葉色や出穂後の日数などに惑わされないようにしましょう(表1・図1)。



図1 収穫適期の判断の仕方



帯緑色粉率とは、不稔粒を除いた全籾数に対する黄緑色粉の比率で求められます。帯緑色粉率が10%程度になつたら刈り取りを始め、3%程度で刈り終わるのが最適です。

3%以下になると急激に品質が低下するので、大規模に作付けしている場合は、15%になつたら刈り始めることも検討しましょう。

また、収穫作業に伴う収穫物への土や異物の混入および付着を防ぐため、刈り残しがない程度に高刈り(10cm以上)しましょう。

## 乾燥・調製作業

急激な乾燥や過乾燥は外観品質だけでなく食味も低下しますので、販売が不利になります。乾燥・調製の段階

で胴割れ粒を増やさないよう、注意しましょう。

乾燥機は、1時間当たりの乾減率が0.8%以下になるように設定しましょう。また、高水分の籾を乾燥するときは、2~3時間通風乾燥した後、火を入れます。

15:1%以上の高水分米は、カビや肌ずれなどの品質事故を誘発しやすいので、水分計を使って14.5%の適正水分になるように調整しましょう。

籾摺機のローラーは、最初の1回で80~85%剥ける程度に調整します。乾燥直後の温かい籾を摺ると胴割れしやすいので冷えてから行いましょう。

なお、整粒歩合80%以上を確保するために、ライスグレーダーの網目は1.85mm以上を適正に使用し、未熟粒・屑米・異物の除去に努めましょう。

## 異品種および異物の混入防止対策

異品種や異物の混入には、購入者から厳しい目が注がれています。信用を得るためには生産段階から防止対策を徹底する必要があります。

収穫・乾燥・調製などの作業前には、品種が変わるごとに各機械の清掃を徹底しましょう。

混入事故は思わぬところで発生します。作業現場の清掃・整頓を徹底し、作業衣のポケットにも筆記用具やラ

イターなど不用意に入れていないか確認して作業にあたりましょう。

また、近年イネ稲こうじ病が多発しています。農産物検査ではイネ稲こうじは異物として見られ、1粒でも混入が確認されると規格外になりますので注意して籾摺り作業をしましょう。

## イネ縞葉枯病の収穫後の対策

イネ縞葉枯病のウイルスを保毒するヒメトビウンカは再生稲(ひこばえ)やイネ科雑草に寄生し越冬することで個体数を増加させていきます。そのため、収穫後は速やかに耕起と畦畔管理を行いましょう。

# 大豆



## 病害虫防除

栃木県農業環境指導センターによると、今後、吸実性カメムシ類が多く発生する可能性があるとのこと。また紫斑病も昨年に引き続き注意が必要です。降雨などの影響によりは種時期がほ場ごとにバラツキがあるため、病害虫の防除適期を見誤りやすいと考えられます。ほ場ごとに開花期などの生育状況をよく確認し、適期を逃すことのないよう注意しながら、防除対策を徹底しましょう。

## みどり会篠井支部活動について

**今** 年度前半の活動をご紹介します。

6月9日、篠井地区社会福祉協議会の多田民男会長に篠井地区の状況・事業についてお話をいただきました。同協議会では福祉や高齢者問題に取り組んでおり、家族だけで悩みを抱えず、地域の人々に手助けをお願いしてもいいと教えていただきました。

7月6日、日環アリーナで行われた女性組織レクリエーション大会に参加しました。篠井からは遠方になりますが、今年行われるとちぎ国体の会場となる場所でしたので、旧総合グラウンド一帯の変わりようも含め見てきました。初めて利用するアリーナは冷暖房完備で過ごしやすく、あっという間の2時間でした。ストレッチや健康体操など、指導者のリードの下、無理なく楽しく体を動かすことができました。例年は玉入れや綱引きなどの勝負に賭ける篠井でしたが、今回は体も心も柔らかくなり好評でした。脳トレは笑ってごまかし、大きな課題を残しました。



レクリエーション大会に参加した会員たち



ウォーキングをする会員たち

## みどり会瑞穂野支部活動について

**新** 型コロナウイルス感染症の影響で行動が制限される中、工夫して活動ができるように計画を立てています。少しずつ交流の場を設けていきたいと思っています。

- 6月▶輪投げ・3B体操 (7割の方参加)
- 7月▶料理教室と会食会 (今回は中止)
- 8月▶自分のための絵手紙
- 9月▶地域活動として小学校の草取り
- 10月▶皆が参加できる日帰り旅行
- 11月▶部屋に飾るハーバリウム  
地域のフェスティバル参加
- 12月▶人気の寄せ植え
- 1月▶料理教室
- 3月▶総会を兼ねた食事会



3B体操に参加した会員たち

どうしたら安心して開催できるのかを考え、一人一人が目標を持ち、健康を意識して楽しい活動につなげていきたいです。



ワンプレート レシピ

# One plate recipe

トウモロコシの  
炊き込みご飯



シェフ永井の  
おすすめ

### 材料(4人分)

米……………400g  
鶏がらスープ……………400ml  
トウモロコシ……………1本  
塩……………小さじ1/2  
しょうゆ……………小さじ

### 作り方

- 1 米を研ぎ、ざるにあげておく(20分)。
- 2 炊飯器に①の米、鶏がらスープ、塩、しょうゆを入れて20分浸す。
- 3 トウモロコシは皮をむいて2等分にし、実を外して芯と一緒に炊飯器に入れて炊き上げる(写真右)。
- 4 炊き上がったら芯を取り出しよくかき混ぜ、器に盛り付け出来上がり。



茨城県笠間市にある  
天晴(旧キッチン購入)  
オーナーシェフ  
ながい ともかず  
永井 智一



## 今月の直売所情報

### JAグリーンインターパーク 9月のお薦め品

この時期のお薦めはやっぱり“梨”です。  
ご自宅用にももちろんですが、ご贈答用にも  
ご利用ください。地方発送承り中です!!



**特売** 南河内  
グリーンセンター  
第3金土日曜は  
特売デー

### お米の特売日

JAうつのみや お薦めのみやおとめ(コシヒカリ)  
をお買い得価格にて販売します!!

JAグリーンインターパーク  
直売所 毎月第3日曜日(9/18)



JAグリーンかみかわち  
直売所 毎月8の付く日(9/8,18,28)

### 南河内グリーンセンター 生産者さん募集中!!

北側ガラス温室テナントも同時募集中  
詳しくは南河内営農経済センター  
TEL: 0285-48-2215  
営農課 森田・上野まで

# 南河内営農 経済センター

だより

各支所の活動や地域の情報をお届けします!



## 地域の想いと歴史をつなぐ「吉田村VILLAGE」

令和3年8月にオープンした、築80年以上の大谷石蔵をリノベーションした農と食をコンセプトとした農泊拠点施設「吉田村VILLAGE」。施設内にはホテルをはじめ、人気ベーカリーや地元野菜の直売を含むセレクトショップが入る複合施設として、話題のスポットとなっています。

下野市東部に位置する吉田地区にあるこの場所は、平成元年までJAの施設がありました。当時は吉田支所のほか、生活センター、購買事務所、ガソリンスタンドがあり、多くの人で賑わっていました。移転後は人・モノの流れが変わり、支所と石蔵倉庫以外の建物は解体され、空き地となり閑散とした場所となっていました。

大谷石蔵倉庫は3棟あり、古い物は昭和16年に建設され、当時は国の指定倉庫として近隣で収穫された検査済みのコメを保管管理していました。役目を終えた後は市内で発掘された遺跡品を保管する倉庫として使用されていましたが、平成26年に地元企業が支所跡をリノベーションし、飲食店を開業。それを機に、かつての賑わいを取り戻そうと、空き地で「吉田村まつり」というマルシェイベントを開催したり、「吉田村プロジェクト」という地域のランドデザインを検討する有識者チームを組織したりするなど、地元民を中心とした地域資源を活用した取り組みが始まりました。

何もないと諦めていた地域で、景観や歴史、農産物などに新たな価値を見出し、後世に残せるような持続可能な地域社会の実現に向けて取り組んでいます。ぜひ皆さんもお立ち寄りください。



築80年以上の大谷石造でできた国指定の米備蓄倉庫



ホテル・ベーカリー・マーケット(野菜直売)の機能を持つ店内

各種お問い合わせはこちらへ

### 支所・センター電話番号

中央支所 028-633-3467	南河内支所 0285-48-2211
宝木出張所 028-622-6111	上三川支所 0285-55-1510
平石支所 028-661-4311	宇都宮北部営農経済センター 028-665-0550
南部支所 028-656-1020	宇都宮西部営農経済センター 028-658-6565
城山支所 028-652-0711	宇都宮南部営農経済センター 028-656-8484
北部支所 028-665-0003	宇都宮東部営農経済センター 028-660-3535
豊郷支所 028-624-8011	上河内営農経済センター 028-674-2164
清原支所 028-667-0151	河内営農経済センター 028-673-6911
姿川支所 028-658-6881	南河内営農経済センター 0285-48-2215
上河内支所 028-674-3333	上三川営農経済センター 0285-55-1511
河内支所 028-673-3135	住宅ローンセンター 028-622-7100

キャッシュカードの紛失・盗難  
フリーダイヤル0120-082065

夜間・土・日・祝祭日の自動車事故(24時間受付)  
事故受付センター フリーダイヤル0120-258931

JA葬祭(24時間受付)  
アトラス宇都宮ホール 028-660-5555  
アトラスファミリーホール鶴田 028-633-9200  
アトラス上三川ホール 0285-55-1555

LPガス関係 灯油・軽油・A重油の配送  
フリーコール 0800-700-0085(通話無料)  
※緊急連絡先028-633-0085